

外国語科（英語）

- 事例 1 1 単元における思考力を高める指導の工夫①
～ 生徒の思考を活性化させる言語活動の充実 ～
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 42
- 事例 2 1 単元における思考力を高める指導の工夫②
～ スモールステップを踏んだ指導の実践 ～
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 50
- 事例 3 「思考のすべ」を使用して読解を深める指導の工夫
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 58

研究協力委員

栃木県立石橋高等学校	教諭	橋本 真悠子
栃木県立茂木高等学校	教諭	福島 諒
栃木県立大田原女子高等学校	教諭	濱野 由紀子

研究委員

栃木県総合教育センター研修部	指導主事	宮田 勇
----------------	------	------

1 調査研究に当たり

高等学校学習指導要領（平成22年）で定めている外国語科の目標は以下のとおりである。

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。

現行の学習指導要領では、「生きる力」の育成を目指し、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うため、言語活動を充実することとしている。外国語科においても、「コミュニケーション能力」の育成という外国語科の目標を達成するために、「生徒が実際に情報や考えなどの受け手や送り手となってコミュニケーションを行う活動」に取り組ませることが重要となる。そのような活動を行う際には、言語の使用場面や働きを適切に組み合わせることにより、活動を効果的にするとともに、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能を総合的に育成する指導を行う必要がある。

思考力・判断力・表現力等の育成に必要な学習活動は、すべて言語を通して行われるものであり、外国語科は言語に関する技能そのものの習得を目指す教科である。だからこそ、日々の授業において、生徒が実際に外国語を使用し、コミュニケーションを行う場面を設定することで思考力・判断力・表現力等を育む機会を取り入れていくことがより一層求められている。

2 思考力の育成を目指して

生徒の思考力を育成することを目指して充実した言語活動を行うためには、学習到達目標に基づいた授業をデザインする必要がある。各校においては、目の前にいる生徒の現状に応じて、3年間を見据えた学習到達目標を立て、生徒に身に付けさせたい力をゴールとして設定することとなっている。そのゴールに到達するために、バックワードデザインで単元計画、授業ごとの計画を立てる。単元計画、授業計画を立てるためには、教科書などの教材を題材として、この単元では生徒にどのような力を身に付けさせたいのか、そのためにはどのような言語活動を行うべきかを考える必要がある。

本調査研究では、研究協力委員の所属校における「CAN-DOリストの形での学習到達目標」（担当学年）を事例紹介の前に示した。各事例とも学習到達目標を達成するためのスモールステップを踏んだ単元計画及び授業計画をデザインし、四つの「思考のすべ」（比較、分類、関係付け、理由付け）を意図的に用いて、生徒の思考力を育成することを目指した授業実践を行った。

〔参考文献等〕

- ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』（平成22年5月）
- ・文部科学省『言語活動の充実に関する指導事例集【高等学校版】』（平成24年6月）
- ・公益財団法人 日本英語検定協会『英語情報』（平成27年6・7月）
- ・栃木県総合教育センター『思考力・判断力・表現力を育む授業づくり【理論編】－「思考のすべ」と発問の工夫－』（平成27年3月）

事例1 1 単元における思考力を高める指導の工夫①

～ 生徒の思考を活性化させる言語活動の充実 ～

1 事例のねらい

グローバル化が進む現代社会において、社会環境の様々な変化に対応することができる力が重要視されている。学習指導要領では、育成すべき資質・能力の一つとして思考力・判断力・表現力等を挙げている。英語の授業においても、読んだり聞いたりしたことを理解したり、学んだ表現を使ったりするだけでなく、内容理解の過程や、様々な言語活動を通して生徒が自分自身で考えたことを他の生徒と話し合ったりして、自分の考えを深めることができるようになることが必要である。

本事例では、第2学年のコミュニケーション英語Ⅱにおける1単元の指導の中で、「思考のすべ」（分類、関係付け、比較）を用いて、スモールステップを踏んだ様々な言語活動（実践1から実践5）を実践することで、生徒の思考を活性化させることを目指した。具体的には、教師の発問やワークシートの作成において「思考のすべ」を意図的に用いることで、本文の内容理解を深めさせるとともに、「英語を用いて何ができるようになるか」という観点から、学んだ内容について生徒自身の考えを話したり、書いたりする場面を多く設定した。

2 CAN-DOリストの形での学習到達目標

【第2学年】履修科目：コミュニケーション英語Ⅱ（4単位）、英語表現Ⅱ（2単位）

主な教材：教科書、教科書の内容に関連した別教材

話すこと (S)	書くこと (W)	聞くこと (L)	読むこと (R)
S1 聞いたり読んだりしたことや学んだことに基づき、情報や考えについて話し合い、結論をまとめることができる。	W1 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについてまとまりのある文章を書くことができる。	L1 事物の紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどの概要を理解することができる。 L2 事物の紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどの要点や詳細を理解することができる。	R1 説明文や物語文などを速読して、概要を理解することができる。 R2 説明文や物語文などを精読して、要点や詳細を理解することができる。
S2 聞いたり読んだりしたことや学んだことに基づき、情報や考えについて自分の意見を簡潔に述べるができる。	W2 論点や根拠などを明確にしながらかくことができる。 W3 相手に効果的に伝わるように、今までに学んだ表現を工夫して書くことができる。	L3 英語の音声的な特徴や、内容の展開などに注意しながら聞くことができる。	R3 説明文や物語文などを、聞き手に伝わるように音読することができる。
S3 与えられた条件で即興で話すことができる。			

3 単元の概要

(1) 単元名 Lesson 4 “Life in a Jar”

(2) 単元の目標 ※ () 内はCAN-DOリストの形での学習到達目標との関連を示す。

第二次世界大戦中にナチスに立ち向かいユダヤ人を救助したイレーナ・センドラー氏の功績と、彼女の活動の内容を理解するとともに、「命」について考え、自分の意見を表現する。

〔コミュニケーションへの関心・意欲・態度〕 ペア・ワークやグループ・ワークに積極的に取り組み、自分の考えを述べたり、相手の意見を聞いたりしようとする。(S2)

〔外国語表現の能力〕 本単元のタイトル“Life in a Jar”の表す意味について、自分の考えを英語で書く。(W1)

〔外国語理解の能力〕 本文を読み、センドラー氏の功績や気持ちなどを捉えることを通して、本文の概要や要点を理解する。(R2)

〔言語や文化についての知識・理解〕 分詞構文や完了形の受動態などの文構造について、その意味や働きなどの知識を身に付ける。

(3) 単元の評価規準 ※ () 内はCAN-DOリストの形での学習到達目標との関連を示す。

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
A1 個人、ペア、グループなどでの活動に積極的に取り組んでいる。(S2)	B1 聞いたり読んだりしたことや学んだことに基づき、情報や考えなどについて話し合い、結論をまとめることができる。(S1)	C1 英文を精読し、登場人物の功績や気持ちを読み取ることを通して、要点や詳細を理解することができる。(R2)	D1 登場人物が行ったことや本文で扱われているテーマについての自分の意見を伝える表現を理解している。
A2 英語を話したり聞いたりするときに、未知語や理解できない箇所があっても、推測したり言葉を置き換えたりして対話を続けている。(S3)	B2 聞いたり読んだりしたことや学んだことに基づき、自分の考えについて、まとまりのある文章を書くことができる。(W1)	C2 語句や表現、文法事項などの知識を活用して、本文の内容や相手が話した内容を的確に聞き取ることができる。(L2)	D2 分詞構文や完了形の受動態などの文構造について、その意味や働きなどの知識を身に付けている。

(4) 単元の指導計画 (総時間数 9 時間)

時間	ねらい	学習活動	CAN-DOとの関連	単元の評価規準	評価方法
1	タイトル“Life in a Jar”の意味を考え、本文の内容を推測する。	話題の導入、(Part 1～4) 新出単語・語彙の確認、タイトルの意味から本文の内容を推測する。	S2	A1、D1	観察 ワークシート
2 実践 1	本文の内容を歴史的事実と登場人物の感情に分類する。	(Part 1～4) 本文を読み、書かれている内容を事実と感情に分ける。	S2、R2	A1、C1	観察 ワークシート
3 実践 2	センドラー氏の功績や活動内容を整理する。	(Part 1～4) 再度本文を読み、センドラー氏が行ったことをまとめる。	S2、R2	A1、C1	観察 ワークシート
4 実践 3	センドラー氏の活動内容について、それぞれのつながりを理解する。	(Part 1～4) 本文を段落ごとに分けてランダムに並べ替えた英文を読み、前後のつながりを考えながら正しく並び替える。	S1、S2	A1、B1	観察 ワークシート
5	センドラー氏の功績や活動内容を要約する。	(Part 1～4) センドラー氏の功績や活動内容について、絵やキーワードを見ながらストーリーテリングを行う。	S3、L2	A2、C2	観察 ワークシート 発表

6	人命救助に尽力した歴史的人物について調べ、発表する。	歴史的人物について調べ、その功績を発表する。センドラー氏との共通点や相違点について考える。	S1、S3	A2、B1	観察 ワークシート 発表
7 実践4	自分がセンドラー氏の立場に置かれたらどうするかを考える。	センドラー氏の功績について再度考え、自分がその立場に置かれたらどうするかを考え、発表する。	S3、W1	A2、B2	観察 ワークシート 発表
8 実践5	タイトルの意味を再度考え、「命」について自分の考えを表現する。	タイトルの意味について再度考え、最初の授業で書いた内容と比較する。	S3、W1	A2、B2	観察 ワークシート 発表
9	本文中の重要語句や文法事項等を整理して、独自の例文をつくる。	重要語句・表現・文法事項の確認、課末問題、例文づくり（ペア・ワーク）	S3	A2、D2	観察 ワークシート

4 授業実践

(1) 実践1について

ア 取り入れた「思考のすべ」とその意図：**分類（示された視点による分類）**

本文に書かれている内容を「事実」と「登場人物の気持ち（感情）」に分類する活動を通して、本文の内容を整理させる。また、個人で分類した結果をペアで比較させ、なぜそう考えたのかについて話し合うことで内容理解を深めさせる。

イ 指導手順

① Part 1～4まで通して本文を読ませ、本文を載せたワークシートを用いて「事実」が書かれている部分（実線部）と、「登場人物の気持ち（感情）」が書かれている部分（波線部）に分類させる。登場人物の気持ちに分類する際には、誰の気持ちなのかを書かせる。

例) 事実：_____ 登場人物の気持ち：~~~~~

Not wanting to lose their family records, Irena kept lists of the names of all the children she saved.
 (センドラー氏の気持ち) (事実)

② ペアを作り、分類した結果を確認させる。

③ 分類結果が違った箇所について、そう判断した理由や根拠を話し合わせる。

ウ 留意点

活動に入る前に、Part 1～4の新出単語や語彙の読み方や意味について確認しておく。また、必ずしも正解は一つではないことを伝え、ペアの相手と答えが違っていた場合には、そう考える理由や根拠を話し合うように積極的に促す。

(2) 実践2について

ア 取り入れた「思考のすべ」とその意図：**分類（示された視点による分類）**

生徒は、前時に本文の内容を「事実」と「登場人物の気持ち（感情）」に分類することで概要を理解している。その上で、さらに本文の内容を「センドラー氏が行った行動」と「それ以外」に分類させることで、センドラー氏の功績に焦点を当てて本文の内容を整理させる。また、個人で分類した結果をペアで比較させ、なぜそう考えたのかについて話し合うことで、内容理解を深めさせる。

イ 指導手順

① Part 1～4まで通して本文を読ませ、本文を載せたワークシートを用いて、センドラー氏が行った行動が書かれている部分に二重線を引かせる。

例) Irena Sendler may be an unfamiliar name to many people, but she was a hero who stood up against the Nazis and saved the lives of about 2,500 Jewish children during World War II.

- ② ペアを作り、「センドラー氏が行った行動」と「それ以外」に分類した結果を確認させる。
- ③ 分類結果が違った箇所について、そう判断した理由や根拠を話し合わせる。

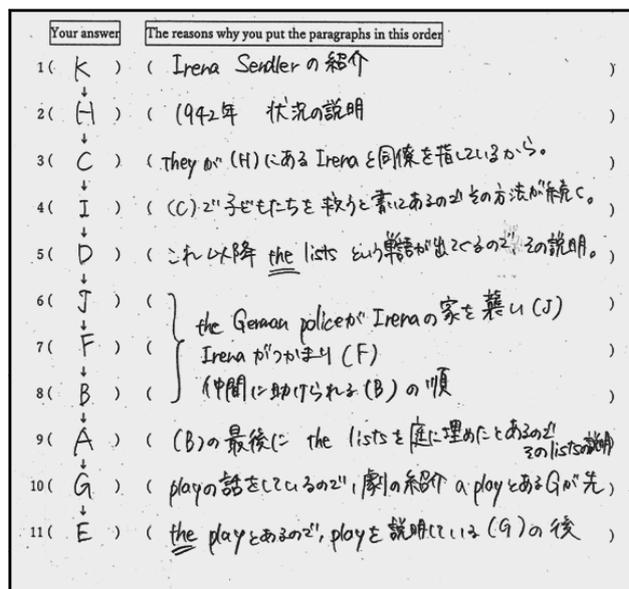
(3) 実践3について

ア 取り入れた「思考のすべ」とその意図：**関係付け（構造化）**

生徒には、前時までに歴史的事実や登場人物の感情、センドラー氏の功績について焦点化して本文を理解させた。本時では、段落ごとにランダムに並べ替えられた英文を、内容やディスコース・マーカーなどを参考にして正しく並べ替える活動を通して、それぞれの出来事の関係性やつながりをより深く理解させる。また、ペアで話し合いながら互いの答えを確認することで、出来事の内容やその原因・結果についての理解を整理させ、センドラー氏の功績や彼女の人生全体について理解を深めさせる。

イ 指導手順

- ① ワークシートを配付し、教科書等を閉じさせる。
- ② 何も見ずに、英文を正しい順序に並べ替えさせる。その際、順序を判断するヒントとなった語句に印を付けさせたり、理由を書かせたりする。（資料1）
- ③ ペアを作り、各自が並べ替えた結果を確認させる。
- ④ 並べ替えた結果が違った箇所について、そう判断した理由や根拠を話し合わせる。



資料1 生徒が記入したワークシートの一部

ウ 留意点

本実践の目的は正しい答えを導くことではなく、なぜその順序になるのかという段落ごとの関係性やつながりを意識して本文を理解することであることを伝え、ペア同士でそう考える理由や根拠を話し合うよう促す。

(4) 実践4について

ア 取り入れた「思考のすべ」とその意図：**関係付け（想像）**

生徒には、前々時（5時間目）にセンドラー氏の功績や活動内容をリテリングさせることを通して、センドラー氏の功績を整理させている。そして、前時（6時間目）には、人命救助に尽力した他の歴史上の人物について各自で調べ、班内で発表させるとともに、その人物とセンドラー氏を比較することで、両者の共通点や相違点について考えさせた。本実践では、その二つの活動のまとめとして、両者の考えや行動を関係付けることで、自分自身がセンドラー氏の立場に置かれた場合、どのような行動を取るかについて考えさせ、自分の意見を発表させる。

イ 指導手順

- ① センドラー氏の功績についてまとめたワークシート（資料2）と、他の歴史上の人物についてまとめたワークシート（資料3）を見返しながら、自分が SENDLER 氏の立場に置かれた場合、どのような行動を取るかについて考えさせる。
- ② 「自分が SENDLER 氏だったらどうするか」ということと、そう考える理由をワークシートに英語で書かせる。（資料4）
- ③ 4人グループを作らせ、自分の意見を発表させる。（図1）

★Let's learn about Irena Sendler and what she did.

Name	Irena Sendler	 <p>Come with me.</p>
Nationality	Polish	
Job	social worker	
Whose lives?	Jewish children	
How many lives?	About 2,500	
When?	During World War II	
Background/ Why did she start saving the people's lives?	By 1942 [the Germans] had put about [450,000 Jews] into [the Ghetto] in [Warsaw]. As a social worker, she and her colleagues brought [food, clothes, and medicine] to [the Ghetto] in order to [help people]. Then she realized that many of the Jews in the Ghetto would be sent to [the death camp]. Then she decided to [save as many children as possible].	
How did she save the people's lives?	1. She talked to [children's parents] and if they agreed, she put their children in [potato sacks, coffins, or goods] and took them out of [the Ghetto]. The children were given [new names] and taken to [families and religious groups] who were willing to [help and risk their own lives].	

資料2 SENDLER 氏の功績をまとめたワークシートの一部

★Let's introduce a person who saved people's lives.

Name	Sugihara Chiune	
Nationality	Japan	
Job	Diplomat 外交官	
Whose lives did this person save?	Jews	
How many lives did this person save?	6000	
When?	During World War II	
Background/ Why did this person start saving the people's lives?	He started saving the people's lives because he found that the Jews who had been caught by the Germans were slaughtered and felt sorry for it.	
How did this person save the people's lives?	He saved the people's lives by issuing many visa.	

資料3 他の歴史上の人物についてまとめたワークシート

★If you were Irena Sendler, what would you do? Would you help people in the Ghetto? Please state your opinion and give some reasons.

If I were Irena Sendler, I (would) help people in the Ghetto. If I help people in the Ghetto, the Nazis may find it out and kill me and my family. However, Jewish people are the same mankind as we are, so I can't give up on them. If I don't help them, I will regret it. What I can do may be so little, but I would like to do what I believe is right.

資料4 生徒の意見



図1 活動の様子

ウ 留意点

生徒には、本時までには学んだことを生かして、当時の社会状況やセンドラー氏の置かれていた立場、ユダヤ人の子どもたちを救った方法、センドラー氏の気持ち、センドラー氏と自分が調べた歴史的人物との共通点（共通する思い）などを振り返らせる。その上で自分がセンドラー氏の立場であればどのような行動をとるか、また、その理由を考えさせることで、様々な側面から状況を理解するように促す。グループの発表の際は、発表者が話した内容をメモするように指導する。

(5) 実践5について

ア 取り入れた「思考のすべ」とその意図：**比較（検討）**

生徒には、本単元の最初の授業で、本文を読む前に本単元のタイトルである“Life in a Jar”が表す意味を推測させ、それが本単元を通しての Big Question であることを伝えてある。本文の内容理解が終わった後で再度タイトルの意味を考えさせ、最初の授業で推測して書いたものと比較させることで、本文の内容に対する理解度がどれだけ高まったかを認識させる。

タイトルは本文の内容を象徴するものなので、それについて考えることで本単元の内容全体を振り返ることができ、内容理解の定着につながると考える。また、本単元のタイトルは文字どおりの意味だけでは説明としては不十分であるため、センドラー氏の行動やセンドラー氏に救われた子どもたち、センドラー氏の功績を基にして作られた劇など、本文に書かれている内容から自分の解釈を加えて説明する必要がある。それを生徒同士で比較させたり話し合ったりさせることで、生徒の思考を深めることにつながると考える。

イ 指導手順

- ① 本単元の最初の授業で、本文を読む前に、「“Life in a Jar”とはどのような意味か」ということについて推測させ、ワークシートに考えを書かせる。（資料5）

また、この問いは本単元の内容を理解するうえでの Big Question であることを伝えておく。

- ② 英文の内容理解が終わった際に、再度“Life in a Jar”とはどのような意味かについて考えさせ、回収しておいたワークシートを再度配付し、裏面に考えを書かせる。（資料6）

最初の授業で書いたことと比較させて、自分の考えの変容を確認させる。

- ③ 4人グループを作らせ、自分の意見を発表させる。その際、本単元で学んだ内容を振り返り、できるだけ具体的に説明するように指導する。

- ④ グループの生徒同士で、意見や解釈の違いについて話し合わせる。

*Please think about the title of this lesson, "Life in a Jar." What do you think it means?

I think "Life in a Jar" means someone's hidden life.
This person has a secret and no freedom. That's why
everything is hidden as if this person lived in a jar.

資料5 生徒が最初に書いた意見



*Please think about the title of this lesson, "Life in a Jar." What do you think it means?

"Life in a Jar" means the children's lives themselves.
What is inside the jar is the list of their names but
the list means their lives because if their names are
on the list, that means they are saved and alive, and
if their names are not on the list, they are killed.
So the title means the Jewish children who were
saved by Irena Sendler.

資料6 生徒が単元の最後に書いた意見

ウ 留意点

タイトル“Life in a Jar”の文字どおりの意味は「瓶の中の命」であり、アメリカの女子学生がセンドラー氏の活動について劇にした際の名前であるが、「瓶の中の命」が意味するものは何なのか、誰の命なのかなどについて自分自身の解釈を書くように指導する。また、本単元のまとめとして行う活動なので、人権問題についても言及し、英作文の際にはその点についても触れるように促す。

5 成果と課題

(1) 成果

本単元の全授業が終了した際に、取り入れた活動やそれらを通して自分の考えがどのように変化したかについて感想を書かせた。次は生徒の記述の一部である。

- ・いろいろな種類の活動があったり、話合いの時間が多かったりしたので、積極的に取り組むことができた。
- ・自分の意見やその理由を話し合う活動が多かったので、なんとなく答えを出すのではなく、自分の考えの根拠を考えながら取り組むことができた。
- ・活動を通して事実や意見、センドラー氏が行ったこと、自分だったらどうするかなど様々な視点から本文を読み、センドラー氏の活動や“Life in a Jar”の意味について書かれていることを理解するだけでなく、より深く考えることができた。
- ・書かれている内容やセンドラー氏についてペアやグループのメンバーと話し合うことで、様々な考え方があることを知ることができた。また、他の人の自分とは異なる考えを知ることによって、自分の考えについてももう一度深く考えることができた。

生徒の回答には「よく考えた」「深く考えた」などの記述が多く見られ、本単元で取り上げた活動を通して、思考する機会が多かったことを生徒自身が感じていることがわかる。思考した内容についても、「なんとなく答えを出すのではなく、自分の考えの根拠を考えながら読むことができた」「異なる考えを知ることによって、自分の考えについてももう一度考えることができた」などの記述から、生徒は本文に書かれていることを表面的に理解しただけではなく、本文の内容をより深く考えることができた。今回の実践では、「思考のすべ」を取り入れることで、登場人物はなぜそのような行動を取ったのか、なぜそう考えるのかなど、常に「なぜ」を生徒に問いかけてきた。生徒への問いは、本文内に答えがあるものだけでなく、本文の内容に生徒自身の解釈や考えを加えて自分なりの答えを作る必要があるものも多かった。そのような問いに答えるために、生徒自身が書かれている内容をまとめたり、そこに自分なりの解釈を加えたりする過程でより深い思考が促されたのではないかと考える。

また、今回は、徐々に考えを深めさせるために、活動の順番を工夫した。

導入時：読みたいと思う意欲を喚起するため「タイトルの意味は何か」という Big Question について考えさせた。

実践 1：事実と感情が書かれた部分を分類することを通して話の大筋を理解させた。

実践 2：**実践 1**で分類した事実のうち、今回の主人公であるセンドラー氏が行った活動は何かを考えさせることで、センドラー氏の活動の理解を深めさせた。

実践 3：ランダムに並べ替えた英文の順番を正しく並べさせることで、各出来事のつながりをより意識させ、内容全体をまとまりとして捉えさせた。

実践 4：自分がセンドラー氏の立場に置かれたらどうするかを考えさせることで、それまでの

実践とは視点を変えて本文を読ませ、内容理解や思考がさらに深まるようにした。

実践5：本単元の導入時に問いかけた「タイトルの意味は何か」について改めて考えさせることで、学んだ内容全てに対する理解や考えをまとめさせた。

このように、大きな枠組みから徐々に小さなものへと活動内容に移したり、視点を変えたりと段階的に様々な活動を取り入れることにより、生徒の思考が徐々に深まったと考える。

今回の実践を通して、生徒は様々な「なぜ」を考え、英文と何度も向き合うこととなった。その結果、思考だけでなく、理解度も高まったように考える。生徒の感想にも「多くの活動を通して、誰が何をしたのかや出来事の順番などを自然と覚えることができた」などの記述が見られた。また、活動の様子からも、今までのレッスンと比較して、授業回数を重ねるごとに学んだ内容や表現について自然と使えるようになっていく様子が見られた。生徒は、様々な活動を通して「思考のすべ」を使用して、より深く英文と関わり、そのことで学んだ内容がより生徒の記憶に残ったのではないかと考える。

(2) 課題

今回の実践を通して感じたことは、話し合いの質を保つことの難しさである。前述したとおり、本事例では生徒に様々な「なぜ」を考えさせた。結果として、ペアやグループのメンバーと話し合いをする機会が多くなり、その話し合いこそが思考を深めることにつながった。しかし、同じ質問を投げかけても、どの程度まで深く細かく話し合うかは生徒次第になってしまい、ペアやグループによっては話し合いの内容の濃さに差が出てしまったように感じた。

そうならないためには、まずは生徒自身が、話し合いたい、他人の意見も聞いてみたいと感じるような課題を設定し、生徒全員が積極的に取り組めるように工夫することが必要である。また、教師の問いの方法や問いそのものもとても大切である。「○○について話し合ってみよう」などの大枠を問うだけでなく、どのように、どの程度まで考えさせるかということまで考えて、それが生徒に伝わるような問いを用意しておく必要がある。今後は、さらに問いの質を高めて、生徒の思考が活性化するような指導を実践していく。

〔参考文献等〕

- ・ 田中武夫・田中知聡著『英語教師のための発問テクニック』（大修館書店 平成21年）
- ・ 三宅なほみ監訳、益川弘如・望月俊男編訳『21世紀型スキル 学びと評価の新たなかたち』（北大路書店 平成26年）
- ・ 文部科学省初等中等教育局『各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定のための手引き』（文部科学省初等中等教育局 平成25年）
- ・ 山本雄著『なぜ「教えない授業」が学力を伸ばすのか』（日経BP社 平成28年）

事例2 1 単元における思考力を高める指導の工夫②

～ スモールステップを踏んだ指導の実践 ～

1 事例のねらい

本事例では、第2学年のコミュニケーション英語Ⅱの単元“*Inspired by nature*”を通して思考力の育成を目指した言語活動の実践を紹介する。本単元では、生物の構造や機能を模倣して新しいテクノロジーや製品を生み出すバイオミメティクスという研究分野について扱っている。

実践1では、本文を読んでバイオミメティクスについて詳しく知る前に、「知識構成型ジグソー法」を活用した活動を通して、主体的にバイオミメティクスの概念を理解できることを目指した。続く**実践2**では、Part2の導入において、**実践1**を踏まえた同様の活動を繰り返すことで、内容理解の定着及び整理を図った。**実践3**では、トランプの神経衰弱の要領で本文のリテリング活動を行い、学習した内容の確認をするとともに、スモールグループでのアウトプット活動を行った。

このように、スモールステップを踏んだ段階的な言語活動の場を設けることで、本文の内容に関して徐々に理解を深め、生徒の思考力を育成することをねらいとした。

2 CAN-DOリストの形での学習到達目標

【第2学年】履修科目：コミュニケーション英語Ⅱ（4単位）、英語表現Ⅱ（2単位）

主な教材：教科書、教科書の内容に関連した別教材

話すこと (S)	書くこと (W)	聞くこと (L)	読むこと (R)
S1 理解した文法、語彙や表現を用いながら、英語で事実や意見を話すことができる。	W1 文章の大意を把握し、英語や日本語で正確に表現できる。 W2 理解した文法、語彙や表現を用いながら、英語で事実や意見を書くことができる。	L1 クラスルームイングリッシュを理解できる。 L2 既習の文章を、意味のまとまりに注意し、大まかな内容を聞き取ることができる。	R1 未習の英文を読んで、日本語に訳さずに、概要や要点を読み取ることができる。
S2 自分の意見や感想を、相手に理解しやすいように工夫して伝えることができる。	W3 自分の意見や感想を、適切な表現を用いて、論理的に書くことができる。	L3 英語検定2級レベルのリスニングを、概ね理解することができる。 L4 身近な社会的話題に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えを理解したり、概要や要点を捉えたりすることができる。	R2 図表やグラフなどが用いられた英文を読んで、必要な情報を得ることができる。 R3 随筆や説明文などを読んで、本文の流れを意識して読み取ることができる。
S3 日常生活の身近なことについて、説明することができる。			R4 英文の構造を意識した上で、聞き手に分かりやすく音読することができる。
S4 身近で社会的な話題に関する簡単なスピーチを英語で行うことができる。			

3 単元の概要

(1) 単元名 Lesson 7 “*Inspired by Nature*”

(2) 単元の目標 ※ () 内はCAN-DOリストの形での学習到達目標との関連を示す。

生物の構造や機能を模倣して、新しいテクノロジーや製品を生み出すバイオミメティクスの研

究事例を通して、生物がもつ驚くべき能力について理解するとともに、読んで得た情報を参考に、バイオミメティクスに関する独自の例を考える。また、資源の枯渇や環境破壊など、人類が直面する課題を意識する。

〔コミュニケーションへの関心・意欲・態度〕 ペアやグループでの活動に意欲的に取り組み、互いに協力しながら活動をしたり、コミュニケーションを取ろうとしたりする。(S2)

〔外国語表現の能力〕 説明文を読んで、その要点を口頭で説明する。(S1)

〔外国語理解の能力〕 説明文を読んで、生物の構造や特徴などがどのようにテクノロジーや製品に反映しているのか、その内容を理解する。(R3)

〔言語や文化についての知識・理解〕 バイオミメティクスの概念について理解する。(R1)

(3) 単元の評価規準 ※ () 内はCAN-DOリストの形での学習到達目標との関連を示す。

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
A1 ペア・ワークやグループ・ワークに意欲的に取り組んでいる。	B1 説明文を読んで、その要点を口頭で説明することができる。(S1)	C 説明文を読んで、生物の構造や特徴などがどのようにテクノロジーや製品に反映しているのか、その内容を理解することができる。(R3)	D1 バイオミメティクスについて理解している。(R1)
A2 自分の伝えたいことを自分の言葉で相手に伝えようとしている。(S2)	B2 読んだことに基づいて、バイオミメティクスの重要性について自分の意見を書くことができる。(W2)		D2 過去分詞で始まる分詞構文や不定詞などの文構造について、その意味や働きなどの知識を身に付けている。

(4) 単元の指導計画 (総時間数 9 時間)

時間	ねらい	学習活動	CAN-DOとの関連	単元の評価規準	評価方法
1 実践 1	バイオミメティクスの考え方を理解し、与えられた課題に対する解決策を考える。	話題の導入 グループ・ワークで、英文を読んで得た情報を基に生物からヒントを得たデザインを考える。	R1	A1、D1	観察、発表 ワークシート
2 実践 2	読んで得た情報を基に、与えられた課題に対する解決策を考える。	(Part 2) ペア・ワークで、英文を読んで得た情報を基に独自のデザインを考える。	R1	A1、D1	観察、発表 ワークシート
3	ナノテクノロジーの進展のおかげで、生物の微細な構造を模倣した素材が開発されたことについて内容正誤問題に答える。	(Part 1、2) 語彙の確認、内容確認、Q & A、音読	R3	A1、C	観察 ワークシート
4	エネルギー問題の解決に役立つ事例を読んで、表にまとめる。	(Part 3) 語彙の確認、内容確認、Q & A、音読	R3	A1、C	観察 ワークシート
5	バイオミメティクスの重要性について、意見を書く。	(Part 4) 語彙の確認、内容確認、Q & A、音読	S2、W2	A2、B2	観察 ワークシート
6	過去分詞で始まる分詞構文を使って文をつくる。	(Grammar for Communication) 文法事項の確認		D2	観察 発表

7	単元全体の内容を表にまとめめる。	(Summary Chart) 本文内容の整理、まとめ	R3	A1、C	観察 ワークシート
8 実践 3	読んだ内容について口頭で説明する。	グループで神経衰弱ゲームを応用したりテリング活動を行う。	S1、S2	A2、B1	観察、発表
9	バイオミメティクスの考え方を用いた身の回りにあるものを調べて発表する。	学んだ内容と自分の身の回りにあるものを関連させ、独自のバイオミメティクスの例を考え、英語で発表する。	S2、R1	A2、D1	観察、発表

4 授業実践

(1) 実践 1 について

ア 取り入れた思考力育成を目指したすべとその意図：**知識構成型ジグソー法**

本単元で学習するバイオミメティクスの考え方を用いて、生物の形や機能と人類が直面する課題を関係付けて考えることにより、本文の概要を理解する。そこで、本実践では知識構成型ジグソー法を活用して授業を展開することにした。知識構成型ジグソー法では、あるテーマについて異なる視点で書かれた複数の資料をエキスパート班に分かれて読み、次に各エキスパートを一人ずつ組み合わせたジグソー班で、それぞれが持ち寄った知識をジグソーパズルのように組み合わせることによって課題を解決する。本実践ではテーマを「バイオミメティクスの考え方を用いて、与えられた課題が解決できるようなデザインを考える」こととした。なお、導入段階で行うことで、教科書を読みたいという意欲をかきたてるのがねらいの一つである。

イ 指導手順

- ① 教科書に登場するバイオミメティクスの例（レオナルド・ダ・ヴィンチがトンボから発想を得て描いたヘリコプターのスケッチ）を用いて導入を行い、全員にバイオミメティクスの考え方を理解させ、本実践のテーマを提示する。なお、教科書にデザインの例が載っているので、予習をしないように指示しておく。
- ② 生徒を4人組のグループに分け、このグループをエキスパート班とする。さらに、エキスパート班を Scientists (A) と (B)、Engineers (C) と (D) のそれぞれ二つの立場に分け、Scientists (A) と (B) には「カワセミ」についての英文、Engineers (C) と (D) には「新幹線（の騒音）」についての英文を与える。

Scientists (A) が読む英文

The kingfisher dives into the water at a speed of about 100 kilometers per hour to catch fish, yet it hardly makes a splash.

Scientists (B) が読む英文

The kingfisher's beak is shaped to reduce water resistance.

Engineers (C) が読む英文

The 500 Series Shinkansen, the first train in Japan to achieve a speed of 300 kilometers per hour, is easily recognized by its long, pointed nose.

Engineers (D) が読む英文

When a high-speed train like the Shinkansen enters a tunnel, quite a loud noise is made at the other end of the tunnel.

- ③ エキスパート班の活動では、与えられた英文を読み、Scientists がもつ情報（カワセミの特徴）と、Engineers が抱える課題（新幹線の騒音）を各自で把握させる。班内で全員が共有できるように、分からないところはメンバー間で話し合うように指示する。また、英文の内容をイメージしやすいように、各班にカワセミと新幹線の写真を与える。
- ④ 図 1 のように、エキスパート班からジグソー班に分かれ、Scientists (A) と (B) がもつカワセミの特徴と、Engineers (C) と (D) が抱える課題を英語で伝え合い、交換した知識を統合して、新幹線の騒音に対する解決策を理解させる。(図 2)
- ⑤ ジグソー班での情報の統合が行われたら、本実践のテーマである「バイオミメティクスの考え方をを用いて、与えられた課題が解決できるようなデザイン」を各自で考えさせ、ワークシートに記入させる。記入が終わったら、班内で自分の考えたデザイン(資料 1)を発表する。

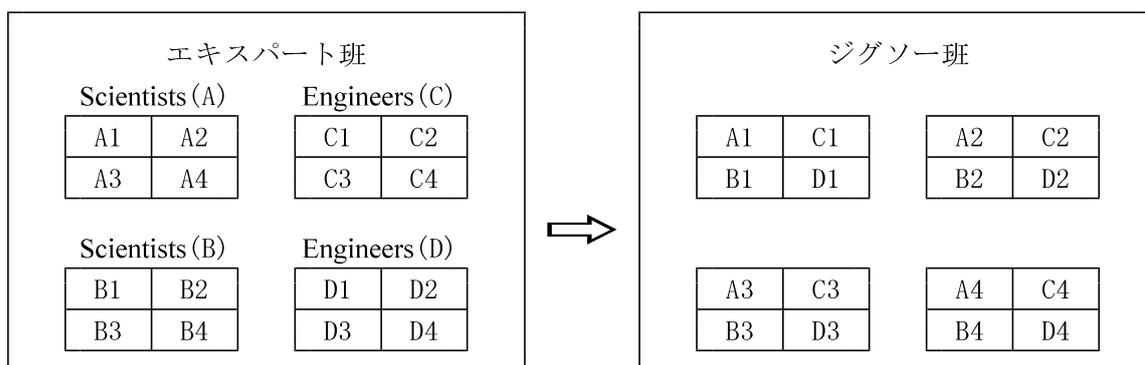
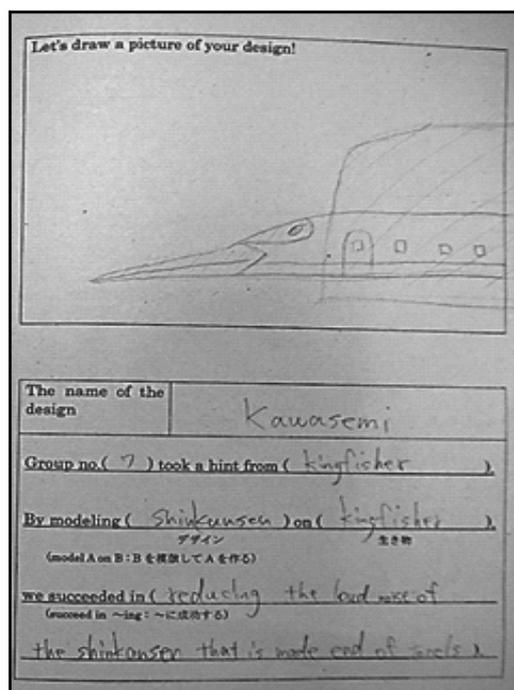


図 1 エキスパート班とジグソー班の構成



図 2 ジグソー班における活動の様子



資料 1 生徒が考えたデザイン例

ウ 留意点

ジグソー法では、インフォメーションギャップを用いたグループ・ワークでの情報交換、統合がポイントとなる。活動中の生徒のインタラクションの様子をよく観察し、各自が自分の役割を果たせるよう留意する。なお、本実践は導入時での活動なので、各自が考えたデザインの発表は班内での発表にとどめる。

(2) 実践2について

ア 取り入れた「思考のすべ」とその意図：**関係付け（類推）**

教科書のPart 2（「蓮の葉」と「壁などの汚れ」に関するの内容）の導入において、前時で学んだバイオミメティクスに関する知識を用いて、**実践1**同様に Scientist と Engineer のそれぞれの立場を関係付けて、課題を解決する独自のデザインを考えさせる。本実践はグループ・ワークではなくペア・ワークで行う。生徒は、前時において同様の活動を経験しており、活動の手順は理解しているため、ペアで実施した方がより多くのインタラクションの時間が確保できると考えたからである。本実践で与えるテーマは、**実践1**と同様に「バイオミメティクスの考え方を用いて、与えられた課題が解決できるようなデザインを考える」とする。同じテーマとすることで内容理解の定着を図ることがねらいである。

イ 指導手順

- ① 生徒をペアにして、それぞれに「蓮の葉」と「壁などの汚れ」に関する英文プリント（教科書の本文には壁の汚れについてはあまり書かれていないので、オリジナルで作成）を読ませ、Scientist がもつ情報（蓮の葉の特徴）と Engineer が抱える課題（壁の汚れとヨーグルトのふた裏について）を各自で把握させる。生徒に読ませる英文は次のとおりである。

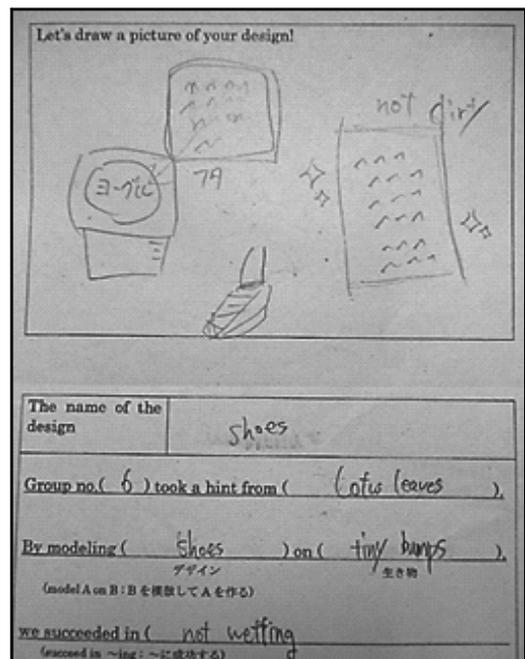
Scientist が読む英文

Lotus leaves repel water and in effect clean themselves. How do they do that? The leaf's surface is covered in tiny bumps 5 to 15 micrometers in size. These bumps catch any water droplets and let them roll off, taking dirt with them. So lotus leaves always keep themselves clean.

Engineer が読む英文

- 1 When we eat a cup of yogurt, sometimes we have some yogurt on the back of the lid. We have to wash it before we throw it away.
- 2 It is difficult to keep a wall clean. It easily becomes dirty and is difficult to clean especially outside.

- ② Scientist がもつ情報と Engineer が抱える課題をペア同士で英語で伝え合い、交換した知識を統合して、解決策を推測させる。
- ③ それぞれの知識を統合した後、本実践でのテーマである「バイオミメティクスの考え方を用いて、与えられた課題が解決できるようなデザイン」を各自で考えさせ（資料2）、ワークシート（資料3）に記入させる。記入が終わったら、ペア同士で自分の考えたデザインを発表し合う。



資料2 生徒が考えたデザイン例

Lesson 7 Inspired by nature					
○Scientists と Engineers の観点から、教科書本文に登場した事例について英語でまとめなさい。					
Living organism (Scientists)	Kingfisher	Lotus leaves	Termite	Humpback whale	Snail
Problem (Engineers)	Shinkansen	Wall	Shopping center	Wind turbines	Dirt
Solution					

資料4 本文全体の内容をまとめるワークシート

ウ 留意点

ゲーム的な要素がある活動を通して生徒の興味を喚起しつつ、2枚の写真を関係付けながらリテリングをさせる。その際に、自分の言葉を用いて本文を言い換えるように促す。

5 成果と課題

(1) 成果

本事例の授業後に行ったアンケートでは、次のような感想が挙げられた。

- ・違うグループの人に説明することで、コミュニケーションを取ったり、相手に説明したりする力を磨くことができた。
- ・グループでの対話の授業は自ら積極的に取り組むことができ、深い内容理解にもつながると思う。
- ・複雑な単語を簡単な単語に言い換えるなど、自分なりの工夫をしていくことで伝わりやすくなり、自分の英語力も向上していくと思った。
- ・いつもより意欲的に英文を読もうと努力できた。
- ・与えられた文を理解することはできても、英語で相手に伝えるのがうまくできなかった。
- ・神経衰弱で、キーワードから英文をつくるのが難しかった。
- ・自分の語彙力が足りないことを実感した。

実践1は、導入の段階でのアクティブ・ラーニングを意識した取組で、挑戦的な活動であったが、アンケートによると、93%の生徒が「バイオミメティクスの大まかな内容が理解できた」と回答しており、こちらが予想したよりもねらいが達成できたと考える。アンケートの感想からも、異なる役割を与え、それらを関係付けさせたことが生徒個人の「考える」活動へとつながっていたことがうかがえる。

実践2は、**実践1**を踏まえた活動であり、ほぼ同様の活動をグループ・ワークで取り組んでいたため取り組みやすい活動となった。ペア・ワークで実施したため、各自のインタラクションの時間が増えて、より多くのアウトプットを引き出すことができた。また、この活動の成果として、教科書には掲載されていない撥水性のある靴のデザインなど、オリジナリティにあふれたデザインが作られた。

実践3では、学んだ内容の定着活動としてゲーム的な要素を取り入れたリテリング活動を実施したが、ここでも前時に本文内容をまとめるというスモールステップを踏んだため、生徒は楽しみながらもアウトプット活動に意欲的に取り組むことができた。

(2) 課題

授業後の生徒アンケートの中に、「普段のグループ活動と違って、今回行ったジグソー活動では、必ず全員が役割を果たさなければならないので大変だった。」という回答があった。そこがジグソー活動のポイントであるが、初めて取り組んだ生徒にとっては困難を感じたようであった。しかし、成果に書いたとおり、「相手」を意識したアウトプットを行わせることで、真のコミュニケーション活動につながると思うので、今後の実践の中でも機会を見てどんどん取り入れていきたい。

また、**実践1**、**実践2**は生徒同士での活動になるので、生徒の学習活動について評価がしづらい部分があると感じた。机間指導はしていたものの、なかなか細部まで目が行き渡らないこともあり、今後のアクティブ・ラーニングの視点での授業改善を意識して、教師側もファシリテーターの役割を学ぶ必要がある。

今回の実践を通して感じたことは、「生徒が自ら考え、取り組む場面」を設けることが重要だということである。今回はグループ・ワークやペア・ワークで行ったが、生徒一人で考えることももちろん「思考力の育成」につながる。教師側が何をねらいとし、そのためにどのような発問をし、どのような活動を生徒に求めるかということを考えて授業を構成する必要がある。

〔参考文献等〕

- ・ 東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構 自治体との連携による協調学習の授業づくりプロジェクト『協調学習 授業デザイン ハンドブックー知識構成型ジグソー法を用いた授業づくり』（平成27年3月）
- ・ 栃木県総合教育センター『思考力・判断力・表現力を育む授業づくり【理論編】ー「思考のすべ」と発問の工夫ー』（平成27年3月）
- ・ 山本崇雄著『はじめてのアクティブ・ラーニング！英語授業』（学陽書房 平成27年）

事例3 「思考のすべ」を使用して読解を深める指導の工夫

1 事例のねらい

本事例では、ただ英文を読むだけではなく、主張や説の背後にある理由や文中には明言されない事柄に目を向けることで、英文をより深く理解することを目指した授業実践を行った。教科書を読み、書かれている事実だけを読み取るのではなく、文中に出てくるキーワードを年表にまとめたり、本文には明示されていない、ある課題に対する解決策の理由を考えたりすることで、生徒が深く思考する場面を意図的に設定した。その際、「思考のすべ」（比較、関係付け）を用いて、生徒がこれまで学習してきた知識を振り返り、活用することができるような発問やワークシートを工夫することを心掛けた。本事例では、第2学年の複数の科目及び単元で実施した**実践1**から**実践5**を紹介する。

2 CAN-DOリストの形での学習到達目標

【第2学年】履修科目：「コミュニケーション英語Ⅱ」（4単位）、「英語表現Ⅱ」（2単位）

主な教材：教科書、教科書の内容に関連した別教材

話すこと (S)	書くこと (W)	聞くこと (L)	読むこと (R)
S1 自分の意見や感想を理由や根拠を含めて伝えることができる。	W 学んだ文法や表現を用いて与えられたテーマについて6文程度の英文を書くことができる。	L 80語程度の英語を聞き、概要を理解することができる。	R1 短くて易しい英文を60wpmの速さで読むことができる。
S2 相手の質問に対して語や句のレベルで答えることができる。			R2 教科書の概要をパラグラフごとに理解することができる。

3 単元の概要 (1)

(1) 単元名 Lesson 3 “Origami Is Not Just a Piece of Paper!”

(2) 単元の目標 ※ () 内はCAN-DOリストの形での学習到達目標との関連を示す。

折り紙の歴史を述べた英文を時間の流れに沿って読むとともに、身近な遊びである折り紙が世界の様々な場所で発展してきたこと、また、科学技術の様々な分野で活用されていることを理解する。

〔コミュニケーションへの関心・意欲・態度〕 単元全体のオーラル・イントロダクションを積極的に聞こうとする。(L)

〔外国語表現の能力〕 折り紙の発展について、時系列順にその歴史を表現する。(W)

〔外国語理解の能力〕 折り紙の発展の経緯を時系列順に理解する。(R2)

〔言語や文化についての知識・理解〕 形式主語、形式目的語 it を含む文構造について、その意味や働きなどの知識を身に付けている。

(3) 単元の評価規準 ※ () 内はCAN-DOリストの形での学習到達目標との関連を示す。

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
A1 レッスン全体のオーラル・イントロダクションを積極的に聞こうとしている。(L)	B1 折り紙の歴史を、既習の語句や文法を用いて表や年表にまとめることができる。(W)	C1 折り紙の歴史について、時系列を意識して英文を読むことができる。(R2)	D 形式主語、形式目的語 it を含む文構造について、その意味や働きなどの知識を身に付けている。
A2 ペアワークにおいて積極的に意見を共有しようとしている。(S1、S2)	B2 本文の内容に関する英語の質問に対し、既習の語句や文法を用いて答えることができる。(S2、W)	C2 折り紙の歴史と技術発展の経緯を、書かれている事実を確認しながら速く読むことができる。(R1)	

(4) 単元の指導計画 (総時間数 7 時間)

時間	ねらい	学習活動	CAN-DOとの関連	単元の評価規準	評価方法
1	学習した語句を含むオーラル・イントロダクションを聞き、単元全体の概要を把握する。	単元全体のオーラル・イントロダクション (Part 1) 内容理解、音読	L、R1	A1、C2	観察
2 実践 1	used to への意味に着目することで、本文には明示されていない事柄に気付く。	ペアワーク (Part 1) 英問英答	S1、S2、W	A2、B2	観察 ワークシート
3	形式目的語itの役割を理解し、本文内容を正確に読む。	(Part 2) 内容理解、音読	S1、S2	A2、D	観察 質問
4	時系列を意識し、キーワードに着目しながら英文を読み、英語の問いに答える。	(Part 2) 復習 (音読)、 英問英答	S1、S2、R2	A2、C1	観察 質問
5	S+V+O+0の文構造を理解し、本文を速く正確に読む。	(Part 3) 内容理解、音読	S1、S2、R1	A2、C2	観察 ワークシート
6	折り紙の様々な分野での活用例についての英文を読み、英語の問いに答える。	(Part 3) 復習 (音読)、 英問英答	S1、S2、W	A2、B2	観察 質問
7 実践 2	折り紙の技術の発展を、時間の流れに沿ってまとめ、年表の形で表現する。	単元全体の通読、ペアワーク、音読	S1、S2、W	A2、B1	観察 ワークシート

4 授業実践 (1)

(1) 実践 1 について

ア 取り入れた「思考のすべ」とその意図：比較 (示された視点による比較)

教科書には、折り紙の目的には「儀式」としての折り紙と「遊び」としての折り紙の2種類があることが示されている。それぞれの具体例は書かれているが、その「起源」や「現在でも人々によって作られているのかどうか」は明示されていない。そこで、折り紙の2種類の目的を三つの視点 (具体例、起源、現在でも作られているのかどうか) を与えて比較させることで、文中には明示されていない事柄に目を向けさせ、内容を掘り下げることでより深く理解させる。

イ 指導手順

- ① 内容理解ワークシート（資料1）を使い、Part 1の本文内容を確認させる。
- ② 3種類の音読活動を通して、折り紙の種類と具体例を確認させる。
- ③ ペアで内容理解ワークシートの表（資料2）を完成させる。（図1）
- ④ クラス全体で表に入る言葉を確認し、その理由を共有する。

Lesson 3 Origami is Not Just a Piece of Paper!

Class 3 Number _____ Name _____

Comprehension (ざっくり理解)

折り紙と言えば・・・① _____ が思い浮かびますね。

折り紙の技術は発達してきていて、今ではほとんど何でも作ることができるのです。ちなみに、右の② _____ を作るのに、③ _____ はまったく使われていません！びっくりですね！

折り紙は日本文化の一部ですが、日本の歴史上、折り紙の④ _____ は⑤ _____ つありました。

折り紙の④その1 ... ⑥ _____ のため (for ceremonies)
→ 例えば⑦ _____

折り紙の④その2 ... ⑧ _____ のため (for play)
→ 古い書物には⑨ _____ が書かれていました。

そして、明治時代以来、子どもたちは⑩ _____ を学んできたのです。

Compare (比較して考えよう)

	Origami for ceremonies	Origami for play
Example		
Origin		
Do people fold them now?		

資料1 内容理解ワークシート

Compare (比較して考えよう)

	Origami for ceremonies	Origami for play
Example	A ceremonial envelope (noshi)	a paper frog.
Origin	?	Heian era
Do people fold them now?	No	Yes.

used to ~ かつて~していた 現在は ~していない

資料2 生徒が取り組んだワークシートの表



図1 活動の様子

ウ 留意点

「儀式」としての折り紙が現在も作られているのかどうかは本文には明示されていない。そこで、既習事項である“過去の習慣を示す would (often)や used to”の意味やイメージを生徒に問いかけ、「過去」と「現在」に関連があるかどうかを考えさせるようにする。また、「儀式」としての折り紙の起源も文中には明示されていないため、事実だけを読み取ると「分からない」という回答になる。本単元では、「分からない」という回答でよいということをクラス全体で共有し、本文から読み取れるか読み取れないかを吟味することが大切であると強調する。

(2) 実践2について

ア 取り入れた「思考のすべ」とその意図：**関係付け（構造化）**

単元を通して折り紙の発展とその活用例が述べられる。このことを時間の流れに沿って年表にまとめ、単元全体の要約をさせる。その際、ある時代に起こった出来事と次の時代に起こった出来事の関係に着目させて、「英文という文字情報」を「イラストや絵を含む年表という視覚情報」に変換することで出来事の間を構造化させ、本文の内容をより深く理解させる。

イ 指導手順

- ① 単元すべてを通じた音読活動を行い、単元全体の内容を復習させる。
- ② ワークシートの年表（資料3）を完成させる。
- ③ クラス全体で年表の空欄に入るキーワードを確認させる。

Lesson 3 Origami Is Not Just a Piece of Paper! 2年3組 番 氏名 _____

【折り紙の歴史と現在をまとめよう】 *Origami Chronicle*

Japanese History	Era	European History
<p>The goals of origami</p> <p>1. For ceremonies → ① _____</p> <p>2. For play → ② _____,</p> <p>which seems to have started in the Heian era.</p>	 Heian or earlier	
Edo		
<p>Origami were made not only in ③ _____ but also in ④ _____.</p> <p>Some European origami works were ⑤ _____ into Japan at the end of Edo era.</p> <p>This brought about the ⑥ _____ of Japanese and European origami.</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  +  =  </div>		
1950s		
<p>An ⑦ _____ was founded.</p>		
Today		
<p>There are many ⑧ _____ around the world.</p> <p>Many people are trying to develop new ⑨ _____ for folding paper.</p> <p>Origami is also used in modern ⑩ _____ and _____.</p> <p>Some examples are ⑪ _____, ⑫ _____, and ⑬ _____.</p>		
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>		
<p>Some researchers studied the ⑭ _____ features of origami and made a ⑮ _____ program.</p>		

資料3 折り紙の歴史をまとめるワークシート（年表）

ウ 留意点

ワークシートはイラストや写真が目立つよう工夫し、キーワードを具体的なイメージとして思い描きながら単元全体を要約できるように留意する。全てのパートを通した年表を完成させるために、パートを進んだり戻ったりしながら繰り返し読み、出来事の前後関係が適切に年表に表れるよう指導する。

(3) 成果と課題

実践1においては、既習の知識を活用することで英文を深く理解することを目指した。生徒は教師が示す視点で複数の事柄を比較し、初めに読むときには気に留めなかったことに目を向けることができた。このような活動によって、読んだり聞いたりする英語を表面的な理解にとどめず、書かれた言葉の背後にある意味に気付くための指導を意識した。この活動で行った「複数の事柄をいくつかの視点で比較する」という読み方は他の英文でも応用ができると考えられるが、教師が与える視点を吟味することが重要であり、その視点が意味のあるものでなければ生徒の思考は深まらなれないと感じた。今後の課題は、生徒の学習到達度を踏まえた発問と視点の示し方のバリエーションを増やすことである。

また、実践後の反省として、「儀式」としての折り紙の起源は「わからない」ということであったが、「儀式」としての折り紙の起源を調べさせることを課題にして、調べた成果を次の授業で発表させる手順も考えられた。そうすることで、家庭学習の成果を授業で発揮するよい機会となり、家庭学習と授業がつながると感じた。

実践2においては、複数の事柄の関係を構造的に理解するために、歴史上の出来事を時系列でまとめて年表の形にして単元の本文全体を要約させた。生徒は年表を完成させるために単元の本文を何度も前後しながら繰り返し読むことで、本文の内容理解が深まった。今回の実践では教師が示した流れで出来事を構造化させたが、次のステップでは生徒自らが出来事の時間的な流れを表や図にまとめる活動を行い、学習したことを要約したり、発表したりするような活動へとつなげていくとよいと考える。

5 単元の概要（2）

(1) 単元名 Lesson 5 “Doctor in the Stomach”

(2) 単元の目標 ※（ ）内はCAN-DOリストの形での学習到達目標との関連を示す。

本文を読み、内視鏡や医療カプセルのような身体の内部から診察を行う技術が発展してきた経緯を理解する。また、より優れた製品を生み出すために従来の課題がどのように解決されてきたのかという視点を持ち、英文に書かれている内容を掘り下げて読むことで内容理解を深める。

〔コミュニケーションへの関心・意欲・態度〕ペアワークにおいて積極的に意見を共有し、互いに協力しながら英語の問いへの答えを作ろうとする。(S1、S2)

〔外国語表現の能力〕内視鏡や医療カプセルについての説明文を読み、学んだ語句や文法を使って英語の問いに答える。(S2)

〔外国語理解の能力〕本文を読み、内視鏡や医療カプセルについて書かれている事実を正確に把握し、本文の概要や要点を素早く理解する。(R1)

〔言語や文化についての知識・理解〕受動態（群動詞・進行形）が含まれる文構造について、その意味や働きなどの知識を身に付けている。

(3) 単元の評価規準 ※ () 内はCAN-DOリストの形での学習到達目標との関連を示す。

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
A1 グループでの活動で積極的にアイデアを出しあったり考えを共有したりしている。	B1 学んだことについて、既習の語句や文法を用いて英語の問いに答えることができる。(S2)	C1 医療機器の説明文を読み、その発展の経緯に着目して、英文の概要を理解することができる。(R2)	D1 医療機器の発展とその背景にある医療現場の要望を理解している。
A2 聞き取れない箇所や未知の語句があっても、推測するなどして聞き続けている。(L)	B2 医療カプセルに昆虫の脚がつけられている理由を、学習した語句等を用いて表現できる。(W)	C2 学習した語句や表現を、文法の知識等を活用して、内容を的確に聞き取ることができる。(L)	D2 受動態（群動詞・進行形）が含まれる文構造について、その意味や働きなどの知識を身に付けている。

(4) 単元の指導計画（総時間数8時間）

時間	ねらい	学習活動	CAN-DOとの関連	単元の評価規準	評価方法
1	タイトルから doctor とは何かを想像し、具体例を挙げる。また、Part 1を読み、doctor とは具体的に何を指しているのか理解する。	単元のタイトルから doctor とは何かを想像して意見を共有する。 単元全体のオーラル・イントロダクション、Part 1の内容理解、音読	L	A2、C2	観察
2	2種類の内視鏡の特徴に着目して英文を読み、英語の問いに答える。また、群動詞の受動態を理解し、他の文脈でも適切に使うことができる。	(Part 1) 復習、音読、Q & A、英問英答、文法の確認と演習	L	A2、D2	観察 ワークシート 質問
3	受動態（進行形）を理解し、本文内容を正確に速く読む。	(Part 2) 内容理解、音読、Q & A	L、R2	A2、C1	観察 質問
4	内蔵カメラ付き医療カプセルの特徴に着目して英文を読み、英語の問いに答える。また、受動態（進行形）を理解し、他の文脈でも適切に使うことができる。	(Part 2) 復習、音読、英問英答、文法の確認と演習	L	A2、D2	観察 ワークシート 質問
5	従来の医療カプセルの弱点について、その理由を述べる。	(Part 3) 内容理解、音読、Q & A		A1、D1	観察 質問
6	従来のカプセルの特徴に着目して英文を読み、英語の問いに答える。また、その弱点を改善するために昆虫の脚が使われるようになった理由を述べる。	(Part 3) 復習、音読、英問英答、ポストリーディング活動	W	A1、B2	観察 ワークシート 発表
7	関係副詞の制限用法、非制限用法を理解し、他の文脈でも適切に使うことができる。また、本文内容を正確に速く読む。	文法の確認と演習 (Part 4) 内容理解、音読、Q & A	L、R2	A2、C1	観察 質問

8	レッスン全体を通読し、人を診察するための医療機器の種類や発展の流れを再確認する。	(Part 4) 復習 (音読)、英問英答、単元を通した音読、単元のタイトルについて、英文を読む前と読んだ後の考えの変化を全体で共有する。	L、S2	A2、B1	観察 質問
---	--	---	------	-------	----------

6 授業実践 (2)

(1) 実践3について

ア 使用した「思考のすべ」とその意図：**比較 (視点を見いだす比較)**

本文には、内蔵カメラ付き医療カプセルに「昆虫のような脚」が付けられた具体的な理由が述べられていない。そこで、「思考のすべ (視点を見いだす比較)」を用いて、昆虫の脚に共通する特徴を挙げさせることにより、なぜ内蔵カメラ付き医療カプセルに「昆虫のような脚」が付けられたのかについて考えさせる。

イ 指導手順

- ① グループを作り、本文の内容に関する問いに答えさせる。
 - #1 What is the weak point of the tiny camera?
 - #2 What does the walking capsule have?
 - #3 How does the walking capsule move?
 - #4 What can the walking capsule do?
 - #5 What can the doctors do with the walking capsule?
- ② 昆虫の脚に注目させ、特徴を挙げさせる。(資料4)
- ③ グループごとに昆虫の脚の特徴をいくつか発表させ、それらを板書してまとめる。
- ④ 黒板に書き出された特徴を踏まえ、なぜ「昆虫のような脚」が採用されたのかを考えさせ、その理由を日本語で書かせる。(資料5)
- ⑤ これまでに学習した語句や文法の知識を使い、その理由を英語に直す。

What are the characteristics of an insect?

(昆虫の脚の特徴は何でしょうか？簡条書きで書き出そう。)

- _____
- _____
- _____
- _____
- _____
- _____



資料4 昆虫の脚の特徴を考えるワークシートの一部

様々な昆虫の脚の共通点に注目・・・

医療カプセルに昆虫の脚が取り付けられた理由は・・・？

から。





英語に直してみよう（ヒント：A enable B to do. AはBが～するのを可能にする）

→ _____

資料5 理由をまとめるワークシートの一部

ウ 留意点

グループ活動で、昆虫の脚の特徴を考えさせる際には箇条書きで意見を出すように、また、昆虫の体の部位や動き等の具体的な言葉は、辞書で調べてワークシートにメモするように指示する。昆虫の脚の特徴を黒板に集約する際には、似た意見は正の字でカウントし、どのくらいの生徒が同じ特徴を思いついたかを示す。昆虫の脚の特徴を文章にまとめて理由を述べる際には、自由な書き方を許容しつつ、「～が…するのを可能にするから」という文の形を示して既習の語句を使って英語に直すのが容易になるよう指示する。

(2) 成果と課題

実践3においては、生徒は、前時の授業で従来のカプセルの弱点について学んでおり、その課題をどう解決するかを考えさせることで、科学者たちが考えた解決策に対する自分なりの意見をもたせることを目指した。そこで、「昆虫の脚」という特定のキーワードを提示し、その特徴や共通点を考えさせた。その結果、生徒は新たな視点を持ち、自分なりの予想のもと自分の意見を持ち、表現することができた。中には「関節がたくさんある」という、教科書に書かれていない、こちらが予想もしていなかった特徴を挙げる生徒もいた。それらをどのように課題解決の材料として文章化させるかが非常に難しく感じたが、自由な発想を生かすことができれば思考力を深めることにつながると感じた。

今後の課題は、生徒が自由な発想で発言したり意見を出したりする活動を意味のあるものにするために、教師側が事前に可能な限り多くの考え方を準備することである。それにより、生徒の発言や多様な意見を授業中に引き出すとともに、生徒の声を拾うことで、より多くのインタラクションを図ることができると考える。

7 その他の授業実践

(1) 本実践のねらい

学校設定科目の時事英語において、時事に関する様々なジャンルの記事を読み、記事の内容に関連して英語で意見を書いたりアンケートをとったりする活動を行っている。ただ英文を読むだけで終わりにするのではなく、ニュースの内容を自分の身近な事柄として捉え、社会で起こっていることに対して自分の意見と課題意識をもたせることを目標としている。学習到達目標との関連については、主に「書くこと」（学んだ文法や表現を用いて与えられたテーマについて6文程

度の英文を書くことができる。)を念頭に置き、毎時間「書く」活動を取り入れている。

本実践は、記事で読んだ内容をより深く理解するためにアンケートを用いたり、自分の意見を書いたりする活動(実践4)と、読んだ内容に関して自分の意見を英語で述べる英作文活動(実践5)を紹介する。

(2) 実践4について

ア 使用教材

日本において受動喫煙のリスクが確認された事についての報道(平成28年9月1日)
(News On Japan <http://www.newsonjapan.com/>)

イ 指導手順

- ① 受動喫煙のリスクに関する記事を読み、書かれている事実を正確に把握させる。
- ② 自分の家族や周りの大人は喫煙してるかどうか、将来自分は喫煙するようになるかどうかについてアンケートをとる。(資料6)
- ③ 喫煙に対するイメージや意見を3文の英語で表現する。
- ④ 次回の授業でアンケートの集計結果を発表し、現在の高校生が喫煙に対してどのような思いを持っているのかをクラス全体で共有する。(資料7)

【日本人における受動喫煙のリスクが確認させる】	
アンケート結果 (時事英語 30名)	
#1 Family members or relatives often smoke. [Yes / No] (家族や親戚の人がたばこをよく吸っている)	Yes → 20 No → 20
#2 I don't mind others smoking. [Yes / No] (私は他の人がたばこを吸うのが気にならない)	Yes → 7 No → 28
#3 I think I will smoke in the future. [Yes / No] (将来、自分はたばこを吸うようになるだろう)	Yes → 0 No → 30

資料6 喫煙に関するアンケート結果

2年 3組 氏名 _____

Questionnaire

#1 Family members or relatives often smoke. [Yes/No] good.

#2 I don't mind others smoking. [Yes/No]

#3 I think I will smoke in the future. [Yes/No]

What do you think of smoking? Write your opinion. in at least three sentences.

has smoked

My father not smoking since four years ago.

1.父はたばこを吸わなくなったが、太りすぎて

2.彼は、ダイエットをしないと

1. Though he stopped smoking, he got fat.

2. I want him to lose weight.

資料7 アンケート結果についての意見文

(3) 実践5について

ア 使用教材

2020年の東京五輪に向け、不特定の人が利用する施設での喫煙違反者への罰則も含めた対策案が出された報道（平成28年10月13日）

(News On Japan <http://www.newsonjapan.com/>)

イ 指導手順

- ① 東京五輪に向け、公共施設での全面禁煙に関する記事を読み、書かれている事実を正確に把握させる。
- ② 日常生活で感じる「禁止すべきこと」について考え、1文の英語で表現する。
- ③ 英作文をする際に、生徒の学習段階に応じて日本語での意見を出させたり、文のパターン(I think ~ should be banned because ...)を示したりしてサポートする。
- ④ 生徒の書いた英作文を回収し、添削する。
- ⑤ 次時の授業で、添削を踏まえてリライトする。その際に、自分の主張をサポートする文章を付け加え、3文程度の意見文に仕上げる。最後は For that reason, ~ should be prohibited in Japan.などで締めくくるようにさせる。(資料8)

2年 3組 氏名 _____

Do you have any trouble in daily life which should be banned?
(日常生活の中で、禁止されるべきだと思う問題がありますか?)

私は子供の前に喫煙するのを禁ずるべきだと思う。
存在ならそれは健康に影響があるから。
I think ~~stoped~~ smoking in front of children
because it is bad for ~~for~~ children's
one's health.

例えば... should be banned.
家中、通学途中、学校の中
ネット上... etc
疑問に思うこと、理不尽だと
思うことはありませんか?

また、タバコの臭いが嫌いな人々がいることを認識することを
重要だ。
→ Also, it is important to realize
[that some people have the smell of cigarette.]

2年 3組 氏名 _____

【10月14日(金)の振り返り&リライト】

Do you have any trouble in daily life which should be banned?
(日常生活の中で、禁止されるべきだと思う問題がありますか?)

Write down what you think in 5 sentences with your reason.
(理由をつけて、5文程度であなたの思うことを書きましょう。)

*最近自分の周りで起こったこと、テレビやネットのニュースなどを見て思ったことを自分の意見をサポートする文として使しましょう。

自分の主張を強くするため
(主張) (理由)
↓
理由を
サポートする文章

60度主張を言い換える

good

I think smoking in front of children should be banned. themselves?

For one reason, it is bad for children's health and (myself) 私自身

Second, some people hate the smell of cigarette

Third, ~~they~~ ^{they} are expensive and cancer risk and ~~not possible~~ ^{possible} がんになる可能性

For those reasons, smoking should be prohibited in Japan.

禁煙は
smoking can lead to higher
cancer risk

資料8 生徒の英作文と添削後にリライトしたもの

(4) 成果と課題

実践4においては、読んだ内容について、喫煙に関する自分なりの意見をもたせることをねらいとし、自分の身近な人に喫煙についてのアンケートを行い、改めて喫煙に対する気持ちや意見を考えさせ、それを英語で書かせた。ほぼ全員が喫煙に対してネガティブなイメージを持っており、クラス全員が将来自分は喫煙者になるとは思わないと答えていた。このようなアンケートを実施し、自分の意見がクラスメートや他の同年代の人と比べてどうなのかを知ることは自分の意見を深めることにつながるのではないかと感じた。

実践5においては、2020年の東京オリンピックへ向けた法整備の一つとして、喫煙違反者への罰則が科されることになるという報道を英語で読ませ、「何かを禁止すべきだ」という形式で自分の意見を表現する英作文をさせた。自分の意見を主張する文とそれをサポートする文を既習の語句や文の形を使って表現することで、既習の知識を活用して自分の考えを表現する場となるよう工夫した。添削とリライトを含み、2回の授業にまたがって実践した。

この科目では、毎回英語で自分の意見を表現することを課しているが、本実践においても英作文が苦手な生徒に配慮し、まずは日本語で意見を書かせたり、添削後にそれを踏まえてリライトさせたりすることで、スモールステップを踏んだ手順を意識して行った。その結果、回数を重ねるごとに生徒のライティング力は向上している。

この科目を実施するにあたって常に意識していることは、生徒にとって身近な話題となり得る記事を選ぶことである。そして、選んだ話題に関連した、自分の意見を主張できるようなテーマをいかに設定するかである。生徒に「何を」読ませるか、そして「いかに」思考させるかを念頭に置いて教材を作成している。このことは、本事例における「思考力の育成」に通じるところがある。授業実践を通して生徒は着実に力を付けているので、今後も「思考力の育成」を目指して継続して取り組むことが大切である。